令和２年度　東京都北区立堀船中学校

堀船中だより

令和２年７月　第４号

校長　阿久津　光生
〒114-0004
東京都北区堀船 2-23-20
Tel 03-3911-8817

心身ともに健康にして、国際的視野に立って社会に貢献し、自立した人を育成する。

教育目標　**自ら**学び　**自ら**考え　**自ら**行動できる生徒

＜６月１５日（月）一斉登校での放送朝礼＞

６月１５日（月）、２・３年生は４月６日の始業式以来、１年生は４月７日の校庭での入学式以来の一斉登校となりました。ここでは、感染症防止対策のため、放送にて行った朝礼の校長あいさつの内容を掲載したいと思います。

「まずは、先日医療関係者への感謝のお手紙作成をお願いしたところ、大勢の生徒のみなさんが、感謝のお手紙を書いて来てくれたことについてです。本当にありがとうございました。内容も、思いやりのこもった感動的なもの、新型コロナウイルスと対峙する勇敢な医療関係者の方々の姿をとても素敵なイラストで表現したもの等、自らの個性をいかして、様々な方法で感謝の気持ちを伝えてくれました。

きっと、医療関係者の方々も、みなさんのお手紙に励まされ、喜んでくださっていると思います。

日々人命を守ってくださっている医療関係者の方々のご尽力に、敬意と感謝の気持ちを改めてお伝えするとともに、新型コロナウイルス感染症がいち早く終息することを願っております。

さて、みなさんがクラス全員で教室での授業を受けるのは、今日が最初です。また、今日から給食も始まります。学校生活に慣れるまでは、いろいろ気を遣ったりして大変だと思いますが、みなさんで力を合わせて充実した中学校生活を送っていきましょう。

先生方・主事さん方もみなさんが一斉に登校できる日を心待ちにしておりました。誰もが経験したことのないこの状況に、我々教職員も、試行錯誤を繰り返し、感染症予防対策や学習の遅れを少しでも解消しようと、動画配信等に取り組んできました。コロナ禍により、学校での学習方法にも大きな変化が見えてきました。本校におきましても、スタディーサプリ等の Web 上の学習を視野に入れて、研究をしていきます。

そして何より、大切なことは、生徒のみなさんの健康と安全です。一人一人が感染症から自分を守る対策を意識しながら、生徒のみなさんと学校一丸となって力を合わせて、この困難な事態を乗り切っていきましょう。」

＜６月１７日（水）保護者会ご参加ありがとうございました。＞

保護者の皆さまには、大変ご心配をおかけして参りましたが、６月１７日、保護者会を開くことができました。平日開催にもかかわらず、ご多用の中１２５名もの保護者の皆さまにご参加いただきました。ありがとうございました。また、全体会の後も学年ごとの保護者会、その後もＰＴＡの各委員会と、長時間に渡りお付き合いいただきまして本当にお疲れ様でした。心より感謝申し上げます。

＜岩﨑主任教諭の産休に伴う教科担当変更のお知らせ＞

本校、岩﨑 彩主任教諭が出産のため７月７日（火）から産休に入ります。

そのため、教科担任が下記のとおり変更になりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

【変更】

産育代替教諭　　伊藤　健（いとう　たける）
　　英語科　　１学年所属

【北里柴三郎と福沢諭吉と野口英世はどんなつながりがあるのでしょう】

北里柴三郎
学校法人北里研究所提供

北里柴三郎は、前号で紹介しました渋沢栄一と同じく 2024 年新紙幣（千円札）肖像となる人物です。北里柴三郎は、1853 年、肥後熊本の庄屋の子として生まれ、成績優秀で、藩校時習館から東京医学校（東京大学医学部の前進）に学びました。その後内務省に入り、ドイツへ国費で留学しました。そこで、細菌学の世界的権威コッホに学び、破傷風菌を人工培養し発症させると、免疫が生じることを発見しました。この免疫を使って治療に応用したのが、血清治療です。この研究は、第１回ノーベル賞を獲得した大発見でした。ところが、この研究を一緒に行っていたドイツ人のベーリングだけが第１回ノーベル賞を受賞し、北里は受賞できませんでした。明治維新になって初めて西洋医学を学んだ日本人がそんな偉大な発見をするわけがないという偏見があったためと言われています。

帰国後、慶應義塾大学を創設した福沢諭吉（現１万円札の肖像）の支援で、慶応義塾大学横の三田、芝公園に土地と建物を譲り受け伝染病研究所を設立しました。

その後、港区白金台の土地に移りましたが、そこは現在の東京大学医科学研究所です。福沢諭吉は、「学問のすすめ」の中で「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず」という言葉で人間の平等をわかりやすくあらわした思想家であり教育者です。

福沢諭吉
慶應義塾福澤研究センター提供

北里柴三郎が所長を務めていた伝染病研究所は、赤痢菌を発見した志賀潔、黄熱病の研究で知られる細菌学者の野口英世（現千円札の肖像）など、優れた人材を輩出しました。

野口英世は、英語が堪能だったので、研究所では研究者というより通訳として北里柴三郎に仕えていました。

野口英世は、福島県会津の猪苗代町の貧しい農家に生まれました。幼い頃、母が畑仕事に行っている間に囲炉裏に落ちて、大やけどをしてしまい、指が縮んだまま動かなくなってしまいました。そんな子を不憫に思った母は、貧しい生活でしたが英世を学校に行かせてくれました。英世も学校で一生懸命勉強しました。英世が自分の左手のことや、将来の不安について書いた作文を読んだ先生や生徒が協力してお金を出し合い、固まった指を五本に切り離す手術を受けさせたことで指が動くようになりました。

野口英世
（公財）野口英世記念会提供

その後、医師になって恩返しをしようと上京して、北里柴三郎に学ぶことになりました。医師としても非常に優秀で、アメリカに渡り、黄熱病の研究等で一躍世界的に有名になりました。その後黄熱病の研究のためアフリカのガーナに渡り研究に励みましたが、自ら黄熱病にかかり、亡くなってしまいました。今でもガーナには野口研究所もあり、日本ばかりか世界的な偉人です。

私は福島県出身なので、よく小学生のころ、「野口英世先生のような立派な人になりなさい」と学校で教えを受けた記憶があります。

「細菌学者の父」と言われた北里柴三郎より、弟子である野口英世が先に日本の紙幣になったのですね。2024 年新紙幣に北里柴三郎の顔が載ることで、師弟の偉大な業績が改めて国民に広がっていくのだと思います。

北里柴三郎は、当時江戸時代以来の医師の組織からバッシングを受けるなど、なかなか日の目を浴びませんでした。そのような中でも、お世話になった福沢諭吉のために、慶応義塾大学に医学部を設立しました。現在は、白金台の東京大学医科学研究所と聖心女子学院の丘の下に、北里大学北里研究所病院と薬学部があります。

北里柴三郎は、「細菌学の父」であるばかりか、まさに日本の近代医学の礎を築き上げた偉人なのです。